

黄檗山万福寺は五箇庄の南にあり。開山隠元和尚は、大明福州福清の人にして、姓は林氏、諱は隆、字は隠元なり。本朝承応三年に東渡し、万治二年公命によつて、山城国宇治郡大和田の勝地を賜り、寛文元年九月より伽藍を草創し、精舎の経営多くは異風を模し、名て黄檗といふ。同十三年四月二日後水尾上皇より大光普照国師の号を賜ふ。

漢門〔惣門をいふ〕、第一義〔漢門の額なり高泉の筆〕、宗■濟道重恢廓・聖主賢臣悉仰尊〔漢門の柱の聯なり高泉の筆〕、山門〔まへに放生池あり〕、黄檗山〔山門二重屋根の間にかくる額なり隠元和尚の筆〕、万福寺〔山門の軒にかくる額なり隠元の筆〕、祖席繁興天広大・門庭顕煥日精華〔山門外柱にかくる聯なり木庵の筆〕、地關千秋日月山川同慶声・門開万福人天龍象任登臨〔山門内柱の聯なり隠元の筆〕、旃檀林〔山門の後東向の額千呆の筆〕、大道没遮欄進歩真登兜率殿・法門無内外翻身投入旃檀林〔をなじく東向の聯千呆の筆〕、天王殿〔布袋和尚の象を安ず金色なり四天王の像傍に安ず〕、天王殿〔天王殿の額なり木菴の筆〕、福地鍾靈特感四王護国・慈門現瑞大欽三舎度人〔天王殿のはしらにかくる額なり即非の筆〕、威徳莊嚴〔天王殿のうしろ東向にかくる額なり即非の筆〕、首冠兜■感応三洲功不宰・臂横宝杵護持正法徳難磨〔おなじく東向にかくる聯なり千呆の筆〕、大雄宝殿〔釈伽仏の坐像を安ず〕、大雄宝殿〔釈伽堂の二十屋根の間にかくる額なり木庵の筆〕、万徳尊〔同堂の軒にかくる額なり木庵の筆〕、仏是良事漢・世豈無主人〔同堂にかくる聯なり即非の筆〕、碧水丹山設長生之画・紅輪白月猷無尽之煙〔同堂にかくる聯なり高泉の筆〕、法堂〔堂前の左右に木犀を植うる〕、獅子吼〔法堂の額なり経山客老人費隱の筆〕、棒喝交馳国師千古猶在・象龍圍繞靈山一会儼然〔同堂にか

くる聯れんなり千呆せんの筆ひ」、威徳殿ゐとくでん〔帝王ていおうの碑はいを安やすず〕、威徳殿ゐとくでん・仁明昭日月にめいしょうにげつ・威徳鎮四河ゐとくちんしよが・山河正氣さんかせいき〔威徳殿ゐとくでんにかくる所ところな
り共に千呆せんの筆ひ〕、祖師堂そしだう〔達磨だるま大師だいし金色こんしきの像ざうを安やすず〕、祖師堂そしだう〔同堂どうだうにかくる額木庵がくもくあんの筆ひ〕、選仏場せんぶつぢやう〔觀音くわんおんの坐像ざざうを安やす
ず〕、選仏場せんぶつぢやう〔坐禪堂ざぜんだうの額がくなり隱元いんげんの筆ひ〕、牌堂はいだう〔地藏尊ぢざうそんを安置あんじす〕、大願堂たいがんだう〔牌堂はいだうの額がくなり大鵬たいほうの筆ひ〕、伽藍堂がらんだう〔伽藍神がらんじん
の像ざうを安やすず〕、伽藍堂がらんだう〔木庵もくあんの筆ひなり聯れんこれを略りやくす〕、食堂じきだう〔金奈羅こんならの像ざうを安やすず木魚鐘版もくぎよしょうばんをかくる〕、禪悅堂ぜんえだう〔食堂じきだうの額がく
なり木庵もくあんの筆ひ〕、開山堂かいさんだう〔隱元いんげん像ざうを安やすず後水尾院ごみづをみんちよくしよ勅書ちくしよの額がくあり繁ひらきによつて略りやくす〕、通玄つうげん〔開山堂かいさんだうの門かどの額がくなり隱元いんげんの筆ひ〕、
開山堂かいさんだう〔同堂どうだうの額木庵がくもくあんの筆ひ聯れんこれを略りやくす〕、壽藏じゆざう・天開壽藏長生日てんかいじゆざうぢやうじやうじつ・地湧松岡不老者ぢゆうそうおかふらうしや〔隱元いんげん和尚おんしやうの塔たつにかくる隱元いんげんの筆ひ
なり〕、隱元碑銘いんげんひのめい〔壽藏じゆざうの前に建たつ〕、舍利殿しやりでん〔開山堂かいさんだうの後の山やまにあり後水尾院ごみづをみんちよくしよより賜たまはる仏舍利ぶつしやりを安やすず後水尾院ごみづをみんちよくしよ宸影しんえいを
安やすず〕、華嚴室けごんしつ〔釈迦しやくか仏ぶつ安やすず〕、節竿旗せつかんき〔大雄宝殿だいをほうでんの前に建たつる〕、万松岡ばんしやうかう〔当山たうさんの茶毘ぢび所しよなり〕、妙高峰めうかうほう〔黃檗山わうぼくさんの峰みねを
いふ〕、五雲峰ごうんほう〔妙高峰めうかうほうの南みなみなり〕